

西田 孝司(松原市文化財保護審議会)



▲境内に建てられた三好長慶の「のぼり」イラスト：ヤマザキミコ

▲境内西側の「くす」

▲本殿前「いちよう」前の「くす」

▲鳥居横の「いちよう」

▲本殿前の「いちよう」

▲若林神社(若林1丁目) 巨樹や「のぼり」が見られる。

最初の「天下人」生誕五〇〇年  
若林神社の巨樹と「のぼり」設置

令和四年(二〇二二)は、大永二年(二五二二)、阿波(徳島県)に生まれ、戦国武将として最初の「天下人」となった三好長慶の生誕五〇〇年にあたり、長慶は、京都で室町将軍を補佐していた管領家の細川氏の家臣でしたが、時の十三代将軍足利義輝を京都から追放し、細川氏からも実権を奪いました。やがて、日本の中核であった近畿地方の十一か国を支配し、織田信長に先立ち、天下を治めたのです。

長慶は、河内でも戦いをくり広げました。当時、河内国を治めていたのは河内守護の畠山氏で、高屋城(羽曳野市古市)に拠っていました。安閑天皇陵古墳の墳丘や濠を利用した城を攻めるため、長慶は摂津方面から進軍し、今の本市最北東部の若林にも陣を置きました。

『細川両家記』によると、天文十六年(一五四七)八月から翌十七年(一五四八)にかけて、長慶は高屋城の畠山政国を攻めるため、若林に陣所を張っています。その後、長慶は天文二十二年(一五五三)、摂津の三好山山頂の芥川城(高槻市)に入り、拠点としたのでした。

長慶は、永祿三年(一五六〇)には居城を芥川城から、北河内の飯盛山山頂の飯盛城(大東市・四條畷市)

に移します。同年七月にも、長慶は政国の後、高屋城主となった畠山高政を討つため、若林に進軍しています。

若林は恵我野の北部を占め、若林一丁目の若林神社が微高地の最高所にあたります。同社は品陀別命(応神天皇)を祭神とし、江戸時代までは「八幡宮」とよばれていました。鎌倉時代末期の元弘・建武期(一二三二〜一三五)に本市小川五丁目の深居神社から分祀したと伝えられています。江戸時代前半、延宝年間(二六七三〜八〇)の「若林村絵図」には、若林の名にふさわしく、広大な境内地が描かれ、樹木で覆われていました(『歴史ウォーク』44・45)。

戦国時代、若林の陣所は、若林神社周辺の森林が広がる野原に設けられたと思われる。現地には、今もその名ごりとして、江戸時代に植えられた巨樹が四本見られます。

私たちが活動する「松原の歴史を知る会」は、平成二十七年(二〇一五)、市内の社寺林を調査して、『松原の樹木』と名づけた冊子を発刊しました。会員の岡本武司さん(元松原市教育委員会文化財課)が担当しました。

若林神社には、樹齢三〇〇〜二〇〇年と推定される「いちよう」の古木が二本あります。一つは本殿前の幹周三〇八cm、樹高十八mの巨樹(環境省基準)です。もう一つは、境内入口の鳥居横に幹周三〇一cm、樹高

二〇mの巨樹がそびえています。他にも、本殿前「いちよう」の手前に幹周三四七cm、樹高三〇mの巨樹の「くす」が見られます。また、境内西側にも幹周三七七cm、樹高三〇mの巨樹の「くす」があります。いずれも樹齢二〇〇〜一五〇年と推定されます。

本年、長慶生誕五〇〇年を記念して、「三好長慶NHK大河ドラマ誘致推進協議会(関西)」は、長慶の父元長の墓所がある堺市堺区の顕本寺(法華宗)や徳島県人会近畿連合会など三好ネットワークのもと、長慶をPRする「のぼり」を作成しました。「のぼり」には、征覇した諸国の地図をバックに、椅子に坐る「信長に先じた天下人三好長慶」をイメージしたイラストが描かれています。「三好長慶をNHK大河ドラマへ!!」や「三好大河を応援します」と呼びかけています。

松原市にも、堺市から問い合わせがありました。六月、市では、若林町会や同協会のご協力で若林の陣所跡推定地の若林神社に、「松原市・松原市観光協会」の協賛で、同「のぼり」三本を設置しました。同時に「三好長慶と若林」の説明文を書いて境内に掲示しました。

大河ドラマ実現に向け、市民の皆さんも「のぼり」の建つ若林神社に足を運んでいただき、松原でも機運が盛り上がることを期待しています。